

衆議院農林水産委員会ニュース

平成 30. 6. 19 第 196 回国会第 22 号

6 月 19 日（火）、第 22 回の委員会が開かれました。

1 都市農地の貸借の円滑化に関する法律案（内閣提出第 43 号）（参議院送付）

- ・齋藤農林水産大臣、磯崎農林水産副大臣、野中農林水産大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行い、質疑を終局しました。
- ・採決を行った結果、全会一致をもって原案のとおり可決すべきものと決しました。
（賛成－自民、立憲、国民、公明、無会、共産、維新、寺田学君（無））
- ・鈴木憲和君外 6 名（自民、立憲、国民、公明、無会、共産、維新）から提出された附帯決議案について、神谷裕君（立憲）から趣旨説明を聴取しました。
- ・採決を行った結果、全会一致をもってこれを付することに決しました。
（賛成－自民、立憲、国民、公明、無会、共産、維新、寺田学君（無））

（質疑者及び主な質疑内容）

石原伸晃君（自民）

- ・本法律案の提出の趣旨について伺いたい。
- ・「都市農業の有する機能の発揮に特に資する」との事業計画の認定基準に関し、省令で定める具体的な基準及びその内容の公表時期について、農林水産省に確認したい。
- ・都市における農地の在り方について、国土交通省はどのような考えを持っているか。

佐藤英道君（公明）

- ・本法律案の対象について、生産緑地地区の区域内の農地に限定した理由を確認したい。
- ・三大都市圏以外での生産緑地制度の活用について、国土交通省のこれまでの取組と今後の取組の方針を伺いたい。
- ・都市農地に関する平成 30 年度税制改正の内容及び都市農業の振興に関する平成 30 年度予算の内容を確認したい。

大河原雅子君（立憲）

- ・都市農業者は農地の貸借に対して消極的であることを伺わせる調査結果もある中で、本法律案のスキームをどのように有効に機能させていくのか。
- ・都市農業の未来像をどのように描いていくのか。
- ・東京都の制度である「農の風景育成地区」と都市計画法上の「田園住居地域」との違いについて確認したい。

後藤祐一君（国民）

- ・骨太の方針に示された新たな外国人材の受入れについて農業分野は対象となるのか。
- ・各事業に都市農業枠を設けることを検討してはどうか。
- ・市街化区域内の生産緑地以外の農地についても法定更新の適用除外を検討すべきではないか。

もとむら賢太郎君（無会）

- ・特定生産緑地制度についての市町村の具体的な手続への支援を行うべきではないか。
- ・市街化区域内の農業用施設用地について相続税納税猶予措置を検討していくべきではないか。
- ・農協の准組合員制度を維持すべきではないか。

田村貴昭君（共産）

- ・日本海沿岸でのクロマグロの産卵期におけるまき網漁業がクロマグロ資源の減少要因ではないか。
- ・クロマグロ資源の現状に対して政府に責任があるのではないか。
- ・学校給食における地場産物の使用割合はどの程度か。特に三大都市圏の都府県については、どのような状況にあるのか。

森夏枝君（維新）

- ・都市農地の貸借について現場からの要望はどのようなものか。また、その対応はどのように行っているのか。
- ・都市農地の賃借料はどの程度か。

- ・都市農業における子供の農業体験に果たす役割について
農林水産大臣はどのように考えているのか。